

パブコメ集計結果(科学技術振興調整費)

1. 総数: 328件

2. 賛否について:

○賛成:	320件
○賛成だが施策の改善見直しの意見を含むもの:	7件
○反対:	1件
計	328件

(賛否の考え方)

- ・主旨に賛成の文意を含むものは全て賛成に判定。
- ・「賛成だが施策の改善見直しの意見のあるもの」は基本的には賛成だが、施策の実施にあたっての改善、見直し方策について記述されているものを集計。

(参考)

①賛成

- ・科学技術振興調整費は、我が国の科学技術の5年、10年先の進歩を支えるものであり、近視眼的な利益だけのためにカットされることは絶対避けるべき。
- ・世界的に見て日本の女性研究者の割合は大変低く、貴重な人的資源を活用できていない。女性であるが故に個々のライフステージにおいて研究活動が停滞する不安を取り除くための「支援」は大きな役割を果たす。
- ・若手研究者養成システム改革は、ポスドクの受皿という側面もあるが、それ以上に旧来の不透明で流動性を欠いた日本の大学の人事システム制度を改善していく上で不可欠であり、将来的な日本の科学技術の発展に直結した事業。
- ・イノベーション創出若手研究人材養成プログラムは、有期の、教育システム改革支援経費である。本来、大学が独自経費により実施すべきだが、財政的余裕がないため、既存の博士教育課程を改変し、新時代の教育システムを定着させるためのスタートアップ経費として、極めて有効かつ効果的な経費である。
- ・優れた基礎研究を社会還元するために、企業と大学との共同研究は有効な手段であり、先端融合領域イノベーション創出拠点の形成は、それを支えるもの。

②賛成だが施策の改善見直しの意見を含むもの

- ・この制度は支援対象が機関そのものであり、閉鎖的で流動性の少ない日本の研究社会を活力に満ちたものに変える事が最大の目的であったはずだが、その目的が十分に達成されているとは思えない。
- ・これまでの振興調整費プログラムは審査・課題管理・評価いずれにおいても明確な基準がなく、多くの場合、目的が達成されずにきており、目的を達成できる課題管理システムを構築しなければ、機能しない予算である。

③反対

- ・効果が疑問。総合技術会議が必要と決めたことを実施する施策だが、お手盛り感が強く、中央に近い研究者に研究費が流れる仕組みになっているように思う。